

## 大分大学医学部看護学科教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー:CP)

看護学は、人間の健康問題にかかわる身体的、精神的、社会的側面のあらゆる反応に対して、その恒常性の維持と健康の増進を図るため、ScienceとArtを統合した実践科学である。

看護学科は、看護学を基盤に、地域・臨床での実践、教育、管理及び研究分野において活躍する人材の育成にむけ、卒業認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる7つの能力を学修するために、以下の方針で教育課程を編成し・実施する。

### <教育課程の編成と教育内容>

1. 「教養教育科目」、「専門基礎科目」及び「専門教育科目(看護学全般、統合分野・看護研究、臨地実習)」による編成とし、早い時期から看護学に触れる機会を提供するため、1年次から4年次までくさび型に配置する。また、学生の多様な興味と関心にそえるように選択科目を多く設ける。
2. 「教養教育科目」は、看護学を学ぶうえで本質的土台となる科目群である。人間の生命の尊重、人権の尊重、人間の理解などを通して人間的成長を促す。
3. 「専門基礎科目」は、「専門教育科目」へ発展するための基盤となる科目群である。看護学の主要概念である人間、健康、環境に関する知識の修得を図る。
4. 「専門教育科目」は、専門職としての基礎を培う科目群であり、1年次から4年次までの学修過程に合わせて段階的に配置する。講義・演習では、看護実践能力の基盤となる知識・技術の修得を図る。また、臨地実習では、教室で学んだことを臨地で確かめ、看護の理論と実践を有機的に統合し、看護実践能力を育成する。

### <教育方法>

1. 看護実践能力の基盤を形成する講義・演習科目は、主体的に学ぶ力や学生相互に学び合う力、問題解決能力を培うため、少人数グループのアクティブ・ラーニングを取り入れた教育を実施する。
2. 学生の主体的に学ぶ力を培い事前学修および事後学修を促すために、eラーニングシステムを活用した授業を設計する。
3. 臨地実習は、多様な看護実践の場において、学生個々がこれまで学んだ知識を統合し、看護の対象者に自分で考えた看護を実践・評価し、看護学の探究と自己の看護観を深める学修である。そのため、学生が主体的、能動的に実践し学べるよう臨地側指導者と教員とで協働し、学修環境を整える。
4. 臨地実習や看護研究においては、試験等では測定できない学生個々がもつ個性や可能性を考慮しながら学修状況を把握し、個別的な教育・指導を行う。

### <学修成果の評価>

1. 学生を対象に各授業科目およびカリキュラム全体の教育評価に関する調査を行う。調査をとおして、学生は、授業科目の学修目標の到達度やカリキュラム履修による自己の成長を評価する。また、教員は、学生の視点や意見を把握し、担当する授業科目やカリキュラム

全体の評価を行う。

2. 4年次のローテーション実習や看護学総合実習、看護研究は、1～3年次の学修を統合し、学生個々が主体となって看護学を探究する授業科目であるため、統合的な学修になりえているのか調査を行い、教育評価に活用する。
3. 卒業を目前にした4年生に対して教育評価調査を実施し、カリキュラムの履修を通じて身につけた能力や成長に対する認識、教育内容・方法についての意見を把握し、カリキュラム全体の評価を行う。
4. 保健師および看護師国家試験の結果を分析し、次年度以降の教育・指導につなげる。
5. 毎年度、カリキュラム評価報告書（各授業科目の教育評価や卒業時学生による教育評価調査等を掲載。学内ホームページにおいて公開）を作成・公表し、教育の成果と課題を検討する資料として活用する。
6. 学生が、自己の成長を適切妥当に評価できるよう学修ポートフォリオの作成・管理を促す。

学修成果の評価は、アセスメント・チェックリストにより実施する。